

医師部門（臨床研究への貢献）

受賞者： ^{しいがい} 椎貝 ^{たつお} 達夫（77歳）

椎貝クリニック 院長

医学博士 JA とりで総合医療センター 名誉院長



椎貝達夫氏は、慢性腎臓病保存療法を提唱し 37 年間診療を続けている。平成 18 年 4 月には透析導入数を 30% 以上減らすことを目標にした「D3-30プロジェクト」を開始し、3年後には 36%の減少を果たした。

心理面の変化が腎不全の進行を止めるとの着想から、高度腎不全（腎機能 15%以下）の治療に世界初の「瞑想」療法を導入。現在、高度腎不全の約 330 人が実行し、2年間腎機能が低下していない人が 20 人にのぼった。世界的に効果的な保存療法がなかった高度腎不全の治療に「瞑想」が効果をあらわすことを客観的に証明することを検討中だ。

また、世界初の功績としては間質性腎炎に新しい治療法を導入した。本来は肺炎の治療に用いる薬を、間質性腎炎と思われる患者に投与したところ、30 例以上でそれまでの進行が停止する効果があった。副作用もほとんどみられず、間質性腎炎の特効薬ともいえる。

地域医療にも貢献しており、院長を務めるクリニックに通う茨城県民は現在約 600 人。氏が提唱する治療を開始したことで進行速度が遅くなり、結果的に 2 億 9 千万円の医療費の削減にもつながった。

慢性腎臓病（CKD）の患者にとっていかに透析を先延ばしにできるかが大きく、進行速度を緩めることは患者の精神的な支えにもなっている。

茨城県を拠点として慢性腎臓病に対する保存療法に専念し、また医療費削減により国への貢献も多大であると考えられる。現在も、自身が院長を務めるクリニックにて腎臓病患者を診療しており、治療成績を毎年発表している。

推薦者： 藤井 信吾 取手市市長